織姫山の麓（ふもと）から

法玄寺報
第59号
令和8年秋
（2026年）

千灯供養を行いました

去る10月3日の土曜日に3年ぶりに千灯供養を行いました。昨年、一昨年とも小雨や風のため、屋外で行う行事である千灯供養を行うことができませんでした。今年は曇り空でしたが、風はなく無事に行うことができました。

このような行事は一般的には万灯会（まんとうえ）と呼ばれ、古くから各宗派で行われています。当山では伝統的に千灯供養と呼んでいて、無縁祭壇に多くのローソクを立てます。

当日には始まる前から多くの人が、250本のローソクでライトアップされた境内に集まりました。6時から始まると、来た方々は無縁祭壇の前に大きな輪を作り、住職が読経をする中、ローソクを手から手に回しました。こうして回されたローソクは、無縁祭壇に上った世話人に手渡され、祭壇の上から並べられました。下の方までローソクが灯されるにしたがい、祭壇全体が闇の中に次第に浮かび上がります。

祭壇にすべてローソクが立てられると、次に周囲の六地蔵や観音様などにローソクを立てます。こうして、全てのローソク立てに点灯されると闇の中に光の世界が浮かび上がります。まさに光明に照らされた極楽世界のようです。

普段の電灯とはまったく異なる、ローソクの炎が揺らめく光景は日常では見られないものです。多くの人たちが、持っていたスマホでこの幻想的な世界を撮影していました。



千灯供養では、多くの人が輪を作りローソクを回しました

百万遍数珠繰り

千灯供養の後、参加者は本堂に上り百万遍数珠繰りを行いました。この行事は京都にある浄土宗大本山の知恩寺で始まった行事で、このため知恩寺のある地名は百万遍と言われています。

百万遍数珠繰りとは、大きな数珠を参加者が輪になって念仏を唱えながら回すことにより、百万回のお念仏を唱えられるという主旨の浄土宗の伝統行事でした。しかし広く普及して、寺だけでなく各地でお通夜の際に行われていました。しかし現在、百万遍数珠繰りは寺以外では行われなくなり、しかも行っている寺はこの辺りでも稀です。

この日は70人くらいの人たちが大きな数珠の前に輪になって座り、住職の念仏に合わせて大きな数珠を回しました。ただ足が悪い方も多く、イスに座って数珠を回しました。伝統的な浄土宗の行事なので、今後も続けたいと思います。



百万遍数珠繰りを行いました。

バイオリンコンサート

百万遍数珠繰りの後、深井淳さんといせやともかさんのコンサートを行いました。いせやさんは今年の3月に引退したのですが、この日だけの復活です。

深井淳さんはバイオリン奏者であるとともに作曲家でもあり、自分の作曲した作品を演奏します。近年は作詞も始め、深井さんが作詞作曲した作品を歌手のいせやさんが歌うというコラボを行っていて、『メッセージ』というアルバムを発表しています。今年3月のラストコンサートでも、深井さんがバイオリンを演奏し、いせやさんが歌いました。

当日のコンサートでは全曲とも深井さんが演奏し、いせやさんが歌いました。荘厳な本堂にバイオリンの美しい音色といせやさんの澄んだ歌声が響きました。いせやさんは数か月のブランクを感じさせない、変わらない歌声で多くの聴衆を魅了していました。



深井淳さんといせやともかさんのコンサート

鐘楼の寄付と除夜の鐘

鐘楼の寄付については、寺報の特別版で報告しましたが、記入漏れがありましたのでこの紙面を借りて深くお詫びいたします。また特別版の送付後に追加の寄付をいただきましたので、新たに特別版をお送りいたします。つきましては前回の特別版と差し替えるようお願いします。

毎年の大晦日には、除日の鐘として54回と除夜の鐘として54回撞きます。除日の鐘は、夜遅く来られない子供さんにも撞いていただきたいため近年始めたものですが、ようやく定着して子供たちが撞きに来るようになりました。今年も以下のように除日の鐘と除夜の鐘を撞きますので、皆様お誘いあわせのうえ撞きに来てください。



5月24日の撞き初め式の時の様子

■除日の鐘
大晦日午前11時45分から

■除夜の鐘
大晦日午後11時45分から

浄土宗開宗八百五十年慶讃記念事業

法然上人が浄土宗を開宗してから850年にあたり、総本山の知恩院では慶讃事業として勢至堂の修復工事を行っています。浄土宗より檀家の皆様への寄付のお願いがきておりますので、檀家の皆さまにパンフレットを同封いたします。一定以上の寄付をされますと、知恩院の特別信徒の待遇券がいただけ、知恩院の庭園を無料で拝観でき庫裡で茶菓の接待を受けられます。800年大遠忌の際にも寄付をされた方は、さらによい待遇券を受けとれます。

勢至堂は知恩院の最古の建物であり、知恩院発祥の地でもあります。現在の御影堂が建てられるまでは、法然上人像をお祀りしていた聖地です。

法然上人は修行時代には勢至菩薩にちなんで勢至丸といわれていました。そのため、法然上人をお祀りするこの建物は勢至堂と名付けられました。比叡山での修業時代に『智慧第一の法然房』と言われた法然上人をお祀りするのにふさわしい建物です。



勢至堂の大修理へのご志納について

小沼さん弁護士サッカーワールドカップで優勝

檀徒総代の小沼洸一郎さんのご子息で、弁護士の小沼正毅さんがキャプテンを務める日本代表チームが、5月にスペインで開催された弁護士サッカーワールドカップで優勝しました。

この大会は2年ごとに開催され、今回は40か国の弁護士チームが参加しました。日本チームは予選2試合を勝ち上がり、さらに決勝トーナメントでも3試合を勝ち抜き優勝しました。日本チームの優勝は史上初めてです。

小沼さんは世界の強豪国と戦うために、二〇一六年に全国にいるサッカーの得意な弁護士に声をかけて弁護士の日本代表ともいえるチームを作りました。その成果が、この度の快挙に結び付きました。

これまで予選敗退だったのですが、今回は期待の若手弁護士を加えてチーム力を強化し、決勝ではルーマニアをPK戦で破り優勝しました。予選、決勝とスペインの強い陽射しの中、8日間で5試合を戦うという厳しいスケジュールでしたが、20人の日本チームは団結力で戦い抜きました。



優勝トロフィーを持つ小沼正毅さん

相洲楼のリフォーム

足利市の老舗の料亭である相洲楼がこのたび、内外とも大幅なリフォームを行いました。

入り口付近にあった建物を撤去して駐車場を広げ、車も入りやすく、駐車もしやすくなりました。玄関の周辺の庭も整備して、入りやすくなりました。

内部も大きく改装して、入口のラウンジも広々としています。また段差もなくなり、バリアーフリーになりました。新たに舞をする舞台のある部屋も作りました。女将は神崎流の舞を行うので、観劇しながら老舗の味を楽しむこともできます。

また、料理を盛る器も入れ替えました。美しい器に盛られた料理は、見た目も美しく日本料理らしく目でも楽しめます。



リフォームした相洲楼の入口